

医学系研究に関する情報の公開について

(2020-24)

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	血圧計マンシユットの方向の違いで測定値に差はあるか
所属科*	麻酔科
研究責任者*	水谷 光
研究実施期間	開始 西暦 年 月承認日 ~ 終了 西暦 2021年3月31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	疾患ではなく手術室職員(50名)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 年 月承認日 ~ 至 西暦 2021年3月31日 (予定)
研究概要*	<p>手術中に血圧を測定するマンシユットのホースは、末梢側に置くのが通常である。しかし私どもは、しばしば中枢側に置く。理由は、上肢を体幹に添わせて巻き込む手術だと、ホースが肘の辺りで折れ曲がって測定できなくなったり、ホースの接続が緩んでも締め直しに苦勞するからである。</p> <p>自動血圧計の測定原理は、肘窩の動脈のコロトコフ音を聞くのではなくオッシレーション法なので、マンシユット全体が拍動を覚知できればよい。つまり、どちら向きに巻いてもよく、実際に測れている。本研究の目的は、マンシユットの方向の違いによる測定値の同等性を確かめることである。</p> <p>健康な手術部職員を被験者を対象とし、片腕に通常のマンシユットの巻き方、反対側には逆の巻き方をする。同じ機種の高血圧計を2台用意し、同時に測定する。直ちに、どちらのマンシユットも逆に巻き直し、また同時に測定する。収縮期および拡張期の血圧値を比較検討する。</p> <p>この方法により、被験者は同一人物なので背景は同じにでき、左右差のバイアスは最小限にできる。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	患者を対象としないとは言え、手術部職員であっても倫理的配慮が求められる。連結可能匿名化を行う。対応表は研究室で厳重に保管する。本研究で得られたデータを統計分析などのために当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報は決して明らかにしない。
研究の問い合わせ先*	麻酔科 水谷 光 PHS 4481

* 記入必須項目